

在留邦人子女、さらに増加傾向

外務省は、海外に長期滞在する在留邦人（永住者を除く）のうち、2005年4月15日付けで義務教育年齢にある子ども（以下在留邦人子女）の人数について調査結果をまとめた。

これによると在留邦人子女数は、もっとも人数の多かった昨年度の54,148人をさらに上回り1,418人（2.6%）増の55,566人となった。

就学率を詳細に見ていくと、日本人学校在籍者数15,683人（818人減）、その他インターナショナルスクール等のみの在籍者、私立在外教育施設の在籍者および不就学者22,225人（1,418人増）となった。

地域別に見ると、日本人学校の在籍者数は全体で増加しつつも、欧州、大洋州では減少。補習授業校は北米（726人減）について、欧州（193人減）で減少が見られながらも、それ以外の地域では増加傾向となっている。

2002年度から就学形態の中で最も多くの割合を占めている“その他”が、北米（1512人減）大洋州地域（563人減）では大幅に減少している。

月間海外子女教育9月号より抜粋

2005年度地域別在留邦人子女の就学状況

